



わくらおんせん

# 和倉温泉地区

(石川県七尾市)

- 計画期間 平成20年度～平成24年度
- 面積 60.5ha
- 交付対象事業費 1,898百万円
- 市人口 49,660人（地区内人口 1,854人）

## ポイント

地域住民、商店街、旅館が主体となって、住む人・訪れる人が楽しく行き交い、にぎわいある温泉街の再生に取り組む。地域には、花や緑が増え、さらには街並みや景観の向上を図るため景観協定が生まれ、50年後100年後を見据えたまちづくりが実現した。

## 地区概要

来訪者が「温泉」と「食」だけの癒しのみならず、地域固有の自然や地域住民とふれあい、まち歩きを楽しむことができる温泉地としての環境づくりを行う。

## 目標

【大目標】和倉温泉まちなか賑わい再生と住民がいきいきと暮らすまちづくり

## 指標

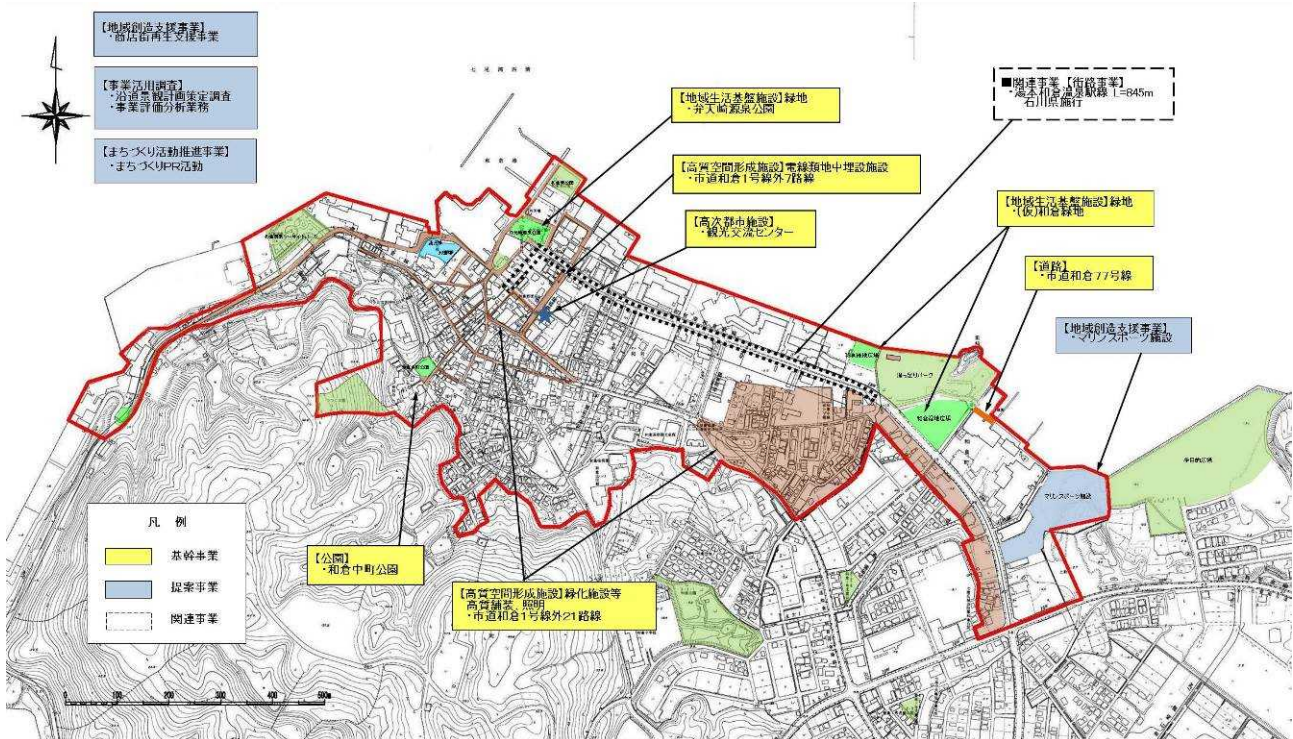
「温泉街のにぎわい再生」、「回遊性の向上」という観点から、下表のとおり目標指数を設定した。

指標	単位	従前値		目標値		評価値	
			基準年度		目標年度		年度
宿泊者数	人/年	900,000	H18	940,000	H24	747,389	H24
総湯入込み客数	人/年	200,000	H18	210,000	H24	248,088	H24
まち歩き者数(七福神巡り者数)	人/年	2,000	H18	2,400	H24	9,544	H24

## 事業内容

基幹事業(1,436百万円) → 道路(1路線 延長L=55m)、公園(1箇所 A=810㎡)、  
 地域生活基盤施設(緑地1箇所 A=2,450㎡、広場1箇所 A=8,916㎡)  
 高質空間形成施設(高質舗装 N=22路線、電線類地中化 N=8路線)  
 高次都市施設(観光交流センター A=440㎡)

提案事業(462百万円) → マリンスポーツ施設(A=17,500㎡)、商店街支援事業、沿道景観計画策定調査



## 地区の現況と課題

七尾市のほぼ中央に位置する和倉温泉地区は、海に面して大型旅館が建ち並んでおり、近隣にはのとじま水族館、奥能登には輪島の千枚田など観光資源が多数あることから、能登半島観光の宿泊拠点として栄えてきた。

本地区には、核となる観光拠点施設もなく、また、安全な歩道空間や緑地や公園などの休憩施設が乏しいことから、まち歩きが堪能できる環境整備が必要であった。

## 提案事業の特徴

### ◆住民活動支援事業

#### ①空き店舗活用

空き店舗の活用方針や運営費確保のための取り組みについて検討支援を行った。これにより、町会が持続的に運営し、観光客が立ち寄って休憩でき、地元住民との交流の場が生まれた。

#### ②花と緑のおもてなし

温泉地としてのおもてなしを充実するため、花と緑の継続的な管理方法や和倉らしい取り組みについて検討支援を行った。これにより、温泉街に向かう道路や公園には緑が増え、癒しを提供するとともに、花を育てることによる地域の輪も広がった。

#### ③マリンスポーツ施設整備

波穏やかな湾内に面した地域の自然を活かし、スポーツ合宿による交流人口拡大を図る。

## 計画策定プロセス

和倉温泉では、平成3年度から平成12年度まで和倉温泉旅館協同組合、和倉温泉観光協会が中心となり、新たな時代に対応した温泉地づくりのあり方を検討してきた。また、平成15年度には全国都市再生モデル調査で、和倉温泉にぎわい再生・まちなみ再編実践プランを策定、今日までに和倉地区の代表者からなるまちづくり委員会、住民を巻き込んだワークショップや講演会などを開催し、和倉温泉の位置付けや現況・課題を踏まえた和倉温泉のまちづくりの方向性と実現に向けての方策の検討を行った。

これらの活動から、和倉温泉のにぎわい再生にむけて、郷土の歴史や文化、風光明媚な自然景観、豊富な温泉などの地域資源を活用した“歩いて楽しむ”温泉地づくりが共通の認識となっている。



観光交流センター（整備後）



弁天崎源泉公園（整備後）



マリンスポーツ施設（整備後）



整備後の利活用（能登よさこい祭り）



地元住民による活動